

# FINANCIAL REPORT

# 2014'

事業年度

2014年4月1日~2015年3月31日



東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO







## 「知の協創の世界拠点」を支える 財務基盤を強化していきます。

東京大学が、国立大学法人制度に移行して12年が経ちます。この間、グローバル化が加速し、地球規模で取り組むべき課題が顕在化してまいりました。東京大学は、これらに対処する新たな知の創造とそれを担う人材を育成し人類社会に貢献するため、知の探求を知の活用へとつなげる「知の協創の世界拠点」を創ります。

我が国の財政状況が厳しい中で「知の協創」の場を創るには、戦略的に経営を強化し、基盤的教育、研究経費を全学で支え、財務運営を盤石なものとする必要があります。そのため、「Financial Report 2014'」をとおして、できるだけ多くの方に本学の財務状況をご理解と共有していただき、さらに「知の協創」の場にも加わっていただければ、総長としてこれほどの喜びはございません。

東京大学総長 **五神 真**

## 国立大学法人会計について

国立大学法人会計は、企業会計原則を基本としていますが、教育・研究といった公共性や非独立採算を踏まえた国立大学法人会計基準を優先適用し、特有の会計処理を取り入れたものとなっています。この一例を挙げれば、以下のとおりです。

区分	業務の目的	利益の獲得
民間企業	利害関係者の利益最大化、 企業価値の最大化	目的とする
国立大学法人	公共的性格を有する教育 研究などの実施	目的としない

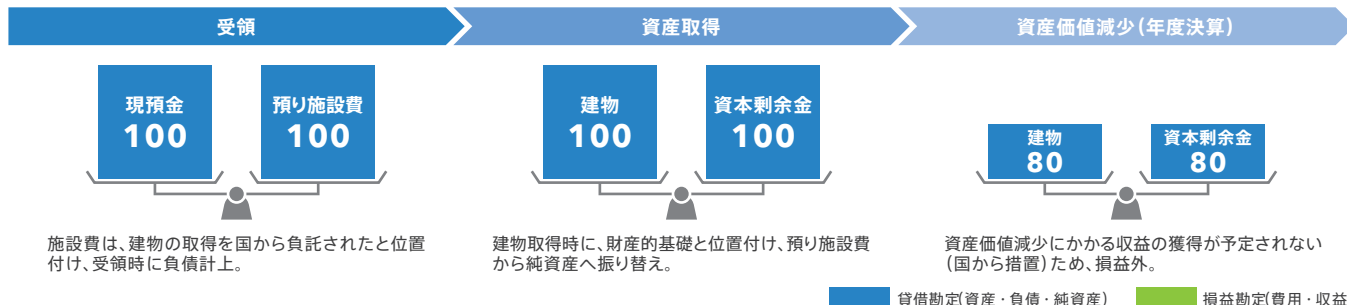
### 損益均衡を前提とした会計処理

公共的な性格を有し、利益の獲得を目的とせず独立採算を前提としません。主たる財源が国から措置されます。



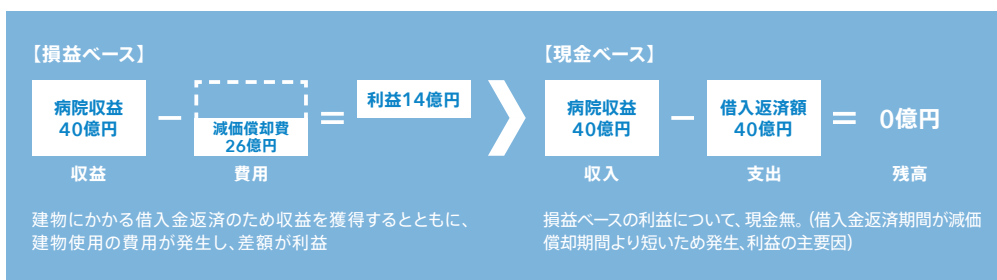
### 損益に影響しない会計処理

施設整備は国が決定・交付するなど、大学単独の判断で意思決定しない場合があります。



### 利益要因(現金無)

附属病院は診療行為の収入があり、企業と同様な処理を行うため、上記の損益均衡処理とはなりません。また、借入金の返済のため、当初から収入(収益)獲得を義務付けられたものがあります。



# 平成26年度 主要TOPICS

## 安田講堂改修

平成25年度から平成26年度にかけて行われてきた東京大学安田講堂の全面改修が完了しました。具体的な改修内容は、講堂の耐震化、防災機能の強化及びバリアフリーへの対応等です。外観の変更はありませんが、安心・円滑に学内行事等が举行できるよう配慮されています。

安田講堂は、内田祥三氏、岸田日出刀氏の設計による講堂で、東京大学のシンボルである中心的な建築物です。安田講堂と名付けられているのは、安田財閥の創始者安田善次郎氏の寄附により建設されたことによります。

大正14年7月の竣工以来、昭和43年から同44年にかけての東大紛争、その後の長期間にわたる閉鎖、平成2年の大規模な改修工事、同3年からの卒業式再開、同8年の登録有形文化財への登録を経てきた安田講堂ですが、同23年の東日本大震災では軽微な被害を受けるにとどまりました。今回の改修工事は、上述の耐震改修に加え、建設当初のオリジナルの計画案に近い形に全体のプランを修正する大掛かりな工事となりました。



©Shigeo Ogawa

## 駒場 I キャンパス21 KOMCEE East竣工

駒場 I キャンパスに21 Komaba Center for Educational Excellence、略称21 KOMCEE(「コムシー」と読みます)のWest棟ができたのは平成23年の5月でした。それから3年後の平成26年の6月にEast棟が完成しました。総面積4500㎡のWest棟はアクティブラーニングのための「スタジオ教室」棟で、オープンスペース・アリーナやレクチャーホールがありますが、East棟は総面積7500㎡で、基礎実験室や講義室があります。実験室には柱がなく、広々と見渡せる空間を学生と教員が共有しつつ実験ができるようになっています。講義室は横長で、学生と教員とがほどよい近さで議論ができるように設計されています。さらにホワイトボードを設けた滞在型空間のオープンスペースや英語ライティングの個人指導を行うKomaba Writer's Studioもあります。地下には最新型のMRI装置Prismaが設置され、ヒトの脳機能イメージングの実験や演習が行われています。全棟が完成した21 KOMCEEは、学生が主体的に学ぶことのできる活動的なアカデミック空間を目指しています。



## 柏の葉キャンパス駅前サテライト施設

柏市のスマートシティの中心に、そのシンボルともいえる施設を、柏の葉キャンパス駅から徒歩から1分という絶好の位置に開設しました。

本サテライトは、フューチャーセンター推進機構が管理運営しています。この建物には、東京大学の関連組織あるいは共同研究推進組織が入居するとともに、まちづくり組織「柏の葉アーバンデザインセンター」も入居し、大学と地元の連携協力を推進しています。

サテライト周辺はゲートスクエアと呼ばれ、民間の大手有名ホテル、大型ショッピングモール等、主要施設が配置されています。各イベントの際には、本サテライトは、人気の写真スポットになっています。



## 教育研究棟「ダイワユビキタス学術研究館」竣工

本郷キャンパスの春日門そばに、異なるサイズの杉板でできた壁面がとても印象的な新研究棟がオープンしました。その名も情報学環ダイワユビキタス学術研究館。大和ハウス工業株式会社が建設し寄贈してくれた最先端インテリジェントビルです。

平成27年3月10日付けで国の名勝に指定された懐徳館庭園を借景とした、ユビキタスコンピューティングの教育研究拠点となる建物には、プロジェクションマッピングの技術を駆使したギャラリーや、気鋭の職人の手による和菓子と珈琲の組み合わせが楽しめるカフェも併設。教職員がお客様を案内するときにも絶好の拠点となってくれそうです。



photo Takumi Ota



# 財務諸表の要約

## 貸借対照表

資産の部			
科目	26年度	増減(前年比較)	
<b>I. 固定資産</b>	<b>1,251,679</b>	<b>△ 61</b>	
土地	888,692	△ 1,329	①
減損損失累計額	△ 3,065	-	
建物	335,089	12,262	②
減価償却累計額	△ 135,419	△ 12,111	
減損損失累計額	△ 264	46	
構築物	25,569	1,544	
減価償却累計額	△ 12,648	△ 1,009	
減損損失累計額	△ 2	1	
工具器具備品	206,309	4,627	
減価償却累計額	△ 149,262	△ 2,217	
図書	43,409	316	
美術品・收藏品	3,102	3	
建設仮勘定	17,995	△ 3,971	
特許権	752	27	
借地権	491	△ 1	
ソフトウェア	337	△ 7	
投資有価証券	29,492	1,800	
その他	1,100	△ 43	
<b>II. 流動資産</b>	<b>142,181</b>	<b>2,417</b>	
現金及び預金	93,910	△ 14,542	③
未収学生納付金収入	184	△ 7	
未収附属病院収入	8,831	112	
徴収不能引当金	△ 533	0	
未収入金	9,073	△ 3,266	
有価証券	29,065	20,104	③
医薬品及び診療材料	1,089	△ 41	
その他	560	58	
<b>資産合計</b>	<b>1,393,860</b>	<b>2,355</b>	

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

負債の部			
科目	26年度	増減(前年比較)	
<b>I. 固定負債</b>	<b>161,489</b>	<b>△ 2,723</b>	
資産見返負債	122,040	2,195	
借入金	29,101	△ 3,633	④
長期未払金	8,774	△ 2,451	
その他	1,573	1,165	
<b>II. 流動負債</b>	<b>120,588</b>	<b>1,277</b>	
運営費交付金債務	16,527	△ 2,013	
寄附金債務	42,994	1,536	⑤
前受受託研究費等	7,172	△ 1,289	
一年以内返済予定借入金	4,420	△ 123	④
未払金	44,215	2,345	⑥
その他	5,257	822	
<b>負債合計</b>	<b>282,077</b>	<b>△ 1,445</b>	
純資産の部			
科目	26年度	増減(前年比較)	
<b>I. 資本金</b>	<b>1,045,247</b>	-	
政府出資金	1,045,247	-	
<b>II. 資本剰余金</b>	<b>19,206</b>	<b>714</b>	
資本剰余金	131,391	10,327	⑦
損益外減価償却累計額(-)	△ 122,829	△ 9,641	
損益外減損損失累計額(-)	△ 3,342	28	
その他	13,986	0	
<b>III. 利益剰余金</b>	<b>46,806</b>	<b>3,070</b>	
前中期目標期間繰越積立金	21,630	-	
教育研究・組織運営改善積立金	1,035	△ 398	
積立金	20,591	4,917	
当期末処分利益	3,550	△ 1,449	
<b>IV. その他有価証券評価差額金</b>	<b>522</b>	<b>16</b>	
<b>純資産合計</b>	<b>1,111,783</b>	<b>3,801</b>	
<b>負債純資産合計</b>	<b>1,393,860</b>	<b>2,355</b>	

(注)貸借対照表とは、決算日(3月31日)における資産、負債、純資産の状況を記載することで、財政状態を明らかにするものです。

## ポイント解説

- ① 渋谷宿泊所及び第二武蔵野寮跡地の譲渡等による減
- ② 安田講堂改修、21 KOMCEE East竣工、工学部4号館改修、法文学部1・2号館改修等による増
- ③ 定期預金(現金及び預金)から譲渡性預金(有価証券)への運用変更による増減



工学部 4号館



法文学部 1・2号館

- ④ 国立大学財務・経営センターからの借入金(附属病院の施設・設備整備)の償還による減
- ⑤ 寄附金の繰越しによる増
- ⑥ 翌期4月支払いの竣工・改修工事等の増
- ⑦ 施設費等を財源とした固定資産の増
  - 安田講堂改修
  - 21 KOMCEE East竣工
  - 工学部4号館改修
  - 法文学部1・2号館改修
  - 理学部化学西館改修 等



理学部化学西館

## 損益計算書

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

科目	26年度	増減(前年比較)
<b>経常費用</b>		
業務費	221,290	10,677
教育経費	14,752	3,639
研究経費	42,188	△ 2,472 ⑧
診療経費	30,364	727
教育研究支援経費	2,562	△ 1,867
受託研究費等	35,493	5,417 ⑨
人件費	95,928	5,233 ⑩
一般管理費	6,294	△ 31
財務費用	883	△ 238
支払利息	871	△ 229
その他	12	△ 8
雑損	276	△ 12
<b>経常費用合計</b>	<b>228,745</b>	<b>10,395</b>
<b>経常収益</b>		
運営費交付金収益	80,805	6,886 ⑩
学生納付金収益	12,929	△ 1,350 ⑪
附属病院収益	46,412	752
受託研究等収益	43,545	7,814 ⑨
研究関連収益	5,547	△ 882
寄附金収益	7,510	△ 7
補助金等収益	13,591	△ 5,609 ⑧
その他	23,141	2,552
<b>経常収益合計</b>	<b>233,484</b>	<b>10,156</b>
<b>経常利益</b>	<b>4,739</b>	<b>△ 238</b>
<b>臨時損失</b>	<b>1,929</b>	<b>△ 216</b>
<b>臨時利益</b>	<b>712</b>	<b>△ 1,454</b>
<b>目的積立金取崩額</b>	<b>27</b>	<b>27</b>
<b>当期総利益</b>	<b>3,550</b>	<b>△ 1,449 ⑫</b>

(注) 損益計算書とは、1事業年度(4月1日から翌3月31日)における運営状況を明らかにするものです。

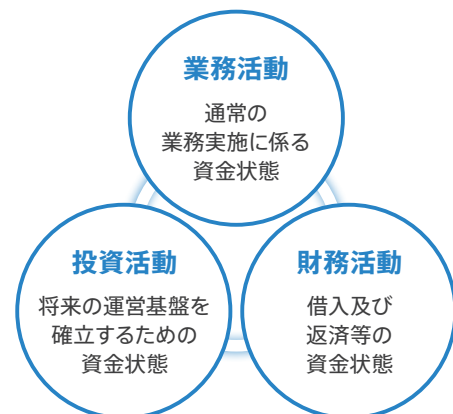
- ⑧ 研究経費/補助金等収益  
先端研究助成基金補助金の終了、研究拠点形成費等補助金の交付額減少による減
- ⑨ 受託研究費等/受託研究等収益  
受託研究、共同研究の受入増による執行額の増
- ⑩ 人件費/運営費交付金収益  
給与臨時特例法終了、退職給付増加等による増
- ⑪ 本財源による固定資産の取得額が増加したことによる減
- ⑫ 資産の取得に充てた病院収入と減価償却費の差から生じる利益かつ、借入金の償還により、現金のない帳簿上の利益など

## キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

科目	26年度	増減(前年比較)
<b>I. 業務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
原材料、商品又はサービスの購入による支出	△ 88,312	△ 5,158
人件費支出	△ 100,890	△ 1,731
その他の業務支出	△ 4,645	922
運営費交付金収入	82,012	3,520
学生納付金収入	14,784	13
附属病院収入	46,279	833
受託研究等収入	44,343	6,943
補助金等収入	17,324	△ 7,988
寄附金収入	8,942	△ 592
その他収入	9,612	△ 714
<b>業務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>29,451</b>	<b>△ 3,952</b>
<b>II. 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△ 52,115	22,393
有価証券の売却による収入	30,423	△ 51,543
有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出	△ 30,609	△ 1,053
有形固定資産及び無形固定資産の売却による収入	2,398	1,257
定期預金等への支出	△ 225,000	△ 44,000
定期預金等の払戻による収入	243,000	72,000
施設費による収入	15,179	7,570
施設費の精算による返還金の支出	-	46
<b>小計</b>	<b>△ 16,722</b>	<b>6,670</b>
利息及び配当金の受取額	644	29
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 16,078</b>	<b>6,700</b>
<b>III. 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	787	593
長期借入金の返済による支出	△ 895	-
リース債務の返済による支出	△ 4,344	1,474
PFI債務の返済による支出	△ 927	△ 92
国立大学財務・経営センター債務負担金の返済による支出	△ 3,649	128
<b>小計</b>	<b>△ 9,029</b>	<b>2,105</b>
利息の支払額	△ 886	214
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 9,915</b>	<b>2,319</b>
<b>IV. 資金増加額</b>	<b>3,457</b>	<b>5,068</b>
<b>V. 資金期首残高</b>	<b>67,452</b>	<b>△ 1,610</b>
<b>VI. 資金期末残高</b>	<b>70,910</b>	<b>3,457</b>

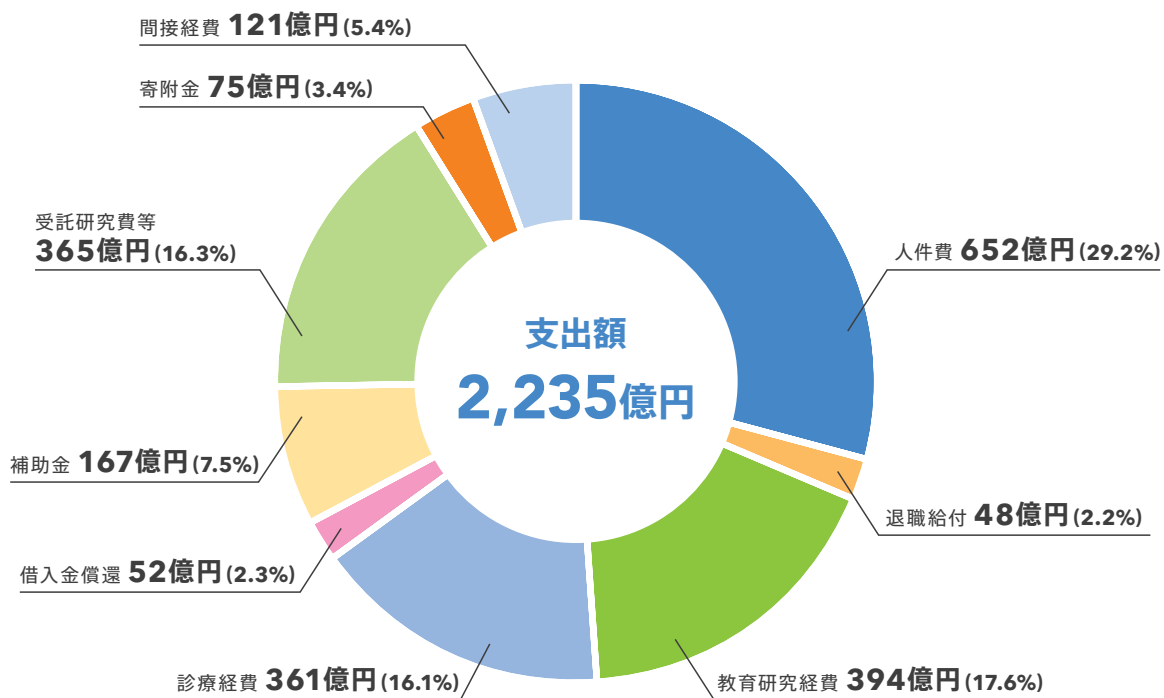
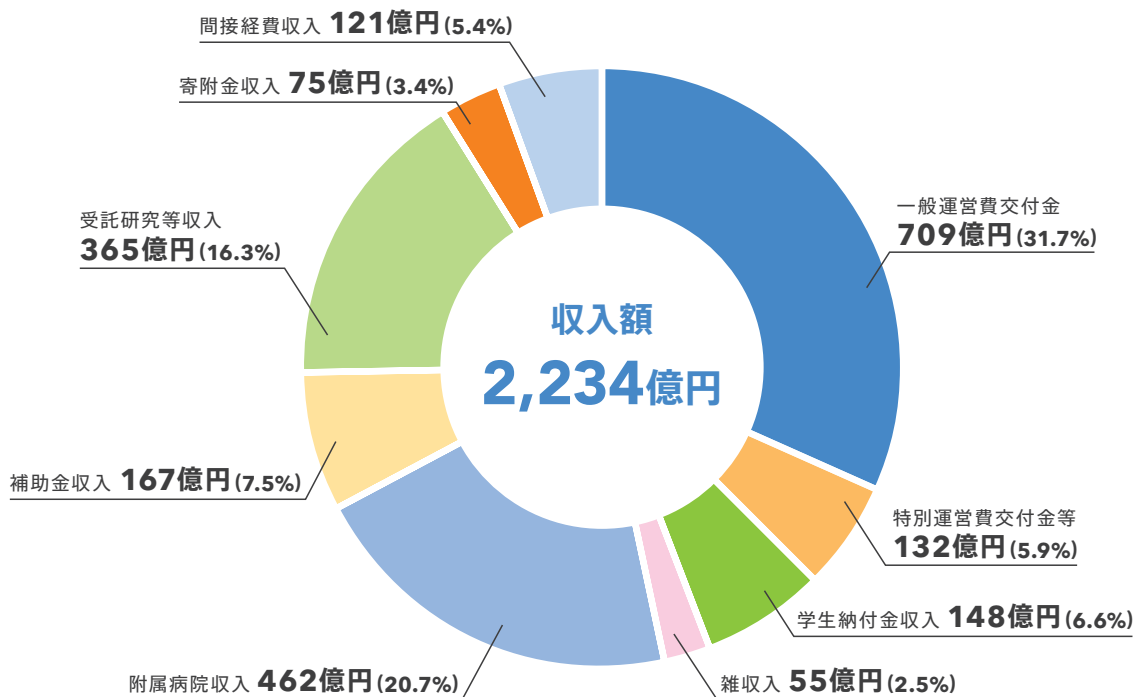
(注) キャッシュ・フロー計算書とは、1事業年度(4月1日から翌3月31日)における活動を業務活動・投資活動・財務活動の3つの区分に分けて、資金の流れを明らかにするものです。



本学は、業務活動で獲得した資金を同活動の他、施設・設備投資や借入金返済にも充てている資金状態が見えます。

## 東京大学の財務構造

平成26年度支出内訳と収入内訳をみると、大学全体では、国からの運営費交付金や学生からの学生納付金収入のほか、獲得した競争的資金や患者からの附属病院収入など多様な財源により、教育・研究・診療活動を実施しているのが表れます。



※1 本収支は、現金主義を基礎としています。なお、収入額は、支出額にかかる財源を示したものであって、獲得額ではありません。(前年度からの繰越執行額を含み、翌年度への繰越額は含みません。)

※2 施設整備費及び設備整備費補助金等の収支は含みません。

※3 科学研究費助成事業等の直接経費については、研究者個人に交付され大学収入とはならないため、各収入には含みません。

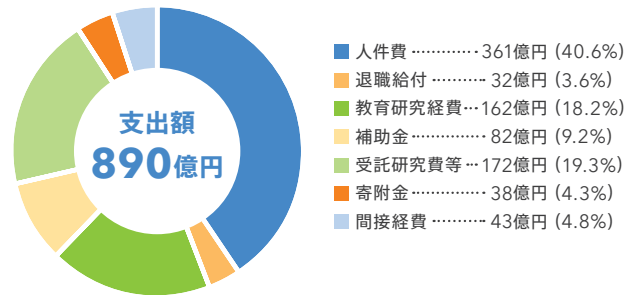
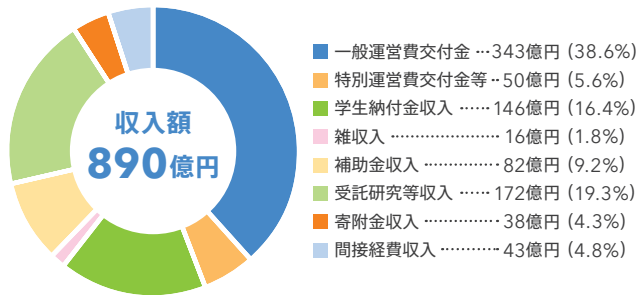
※4 支出額の人件費及び退職給付の対象は承継職員等であって、他の人件費は各支出に含まれます。

本学は、研究科・学部、附置研究所、センター及び附属病院など様々な組織から構成され、それぞれの規模や業務内容によって、財務構造が異なります。そこで、総額から種類の組織について、グループ集計をしました。

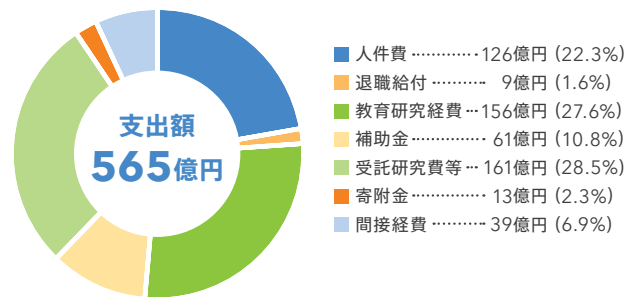
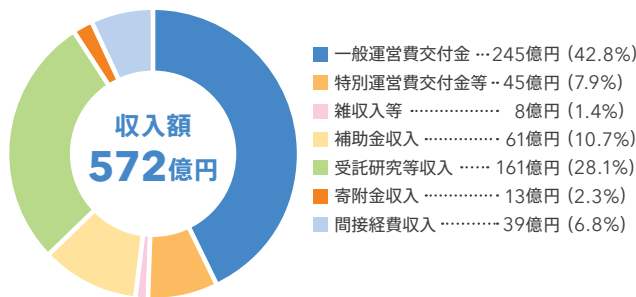
支出額では人件費又は教育研究経費の占める割合が高い構造、収入額では、運営費交付金又は自己収入の占める割合が高い構造、更には競争的資金の占める割合が高い構造など、大きく異なります。

なお、人文・社会科学や自然科学などの組織に分けると、更に構造が異なります。

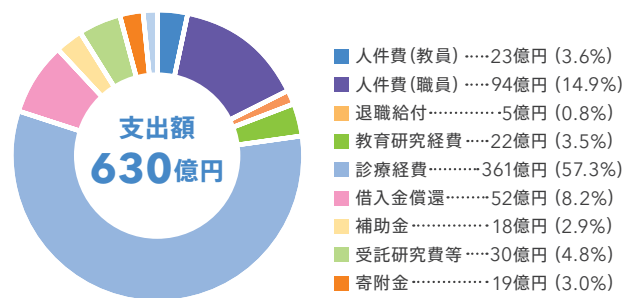
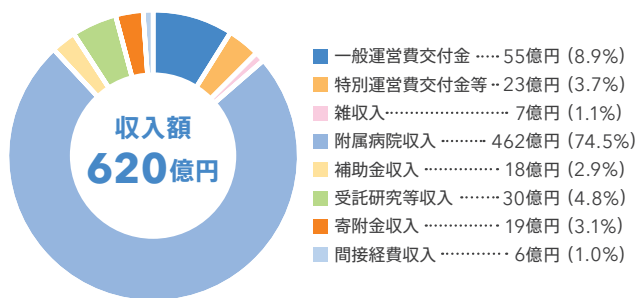
## 研究科・学部



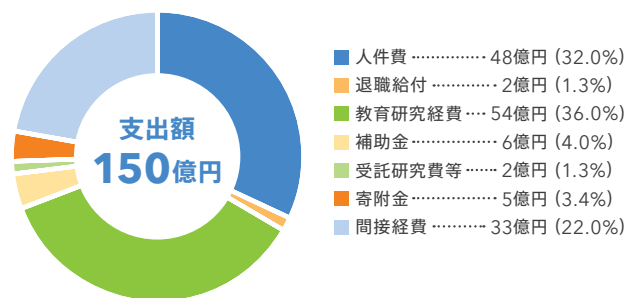
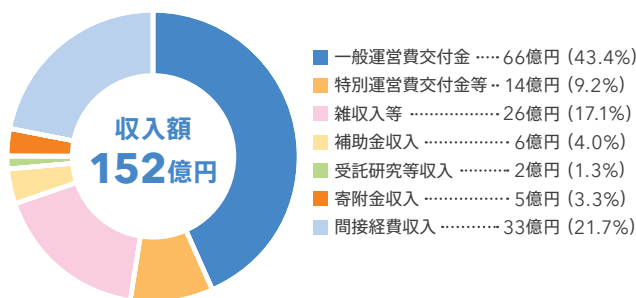
## 附置研究所・センター



## 附属病院



## 法人共通



# 東京大学基金の取り組み

## 東京大学基金とは

東京大学基金は本学をご支援くださる皆様からの寄附金により構成される本学の重要な財産の一つです。基金はその目的や管理方法により以下の通り区分されます。

- 1: 基金のコアとして積立・運用・活用するための寄附金(非目的指定)
- 2: 特定の目的遂行のための寄附金(目的指定)

本学ではこの二つを併せて東京大学基金と称しています。

我が国の財政状況が厳しい中、国立大学法人も財源の多様化が求められており、東京大学基金の強化は今後ますます重要となります。

## 基金の推移

東京大学基金は、国立大学が法人化された平成16年度に、本学の財政基盤を長期的に支えることを目的として設立されました。

これまでの活動を通して、累計で約333億円のご寄附申込みをいただきました。

基金の現在高は、約103億円(非目的約91億円、目的指定未使用額約12億円)となっており、年間約1億円の運用益を本学の教育研究活動に活用しています。

運営費交付金を例にとると、法人化された平成16年度を基準にした場合、その後10年間の累計で約670億円が減額されている状況です。

単純な比較はできませんが、運営費交付金の減額に対して、基金に集まった333億円という寄附金は大学運営において重要な役割を果たしています。

## 海外有力大学との「基金」規模の比較

海外の有力大学では寄附金から構成される基金の運用益が重要な財源となっています。

安定的な財源を確保することは強い競争力を持つことにつながりますが、本学の基金は海外の有力大学と比較するとまだ小さな規模にとどまっています。

## 東京大学基金の活動

平成26事業年度は個人や法人の方々から約25億円の寄附申込みをいただきました。

内 訳

- ・新たに約6億円を基金に積み立てました。
- ・目的指定された寄附を以下の通り受入れ、活用しています。

教育・研究支援 (カブリIPMU支援等)	奨学金等 (さつき会奨学金基金等)	キャンパス整備等 (安田講堂改修等)	その他 (スポーツ振興基金等)
約9億円	約2億円	約7億円	約1億円

## ご支援のお願い

東京大学基金は、①奨学制度の充実、②教育・研究支援、③キャンパス環境整備などを推進するために設けられた基金です。

教育・研究活動で対応の急がれるプロジェクトに対する寄附募集活動と基金(エンダウメント)の積み立てを並行的に展開しています。

東京大学は、寄附活動を媒介として、社会と大学のコミュニケーションを深め、大学の社会貢献活動を促進していきます。

東京大学基金へのご理解・ご支援よろしく申し上げます。詳しくは、下記HPをご参照ください。



東京大学基金

<http://utf.u-tokyo.ac.jp/>



東京大学基金2014年度活動報告書

[http://utf.u-tokyo.ac.jp/result/pdf/result\\_2014.pdf](http://utf.u-tokyo.ac.jp/result/pdf/result_2014.pdf)

基金現在額

10,385,134,804円

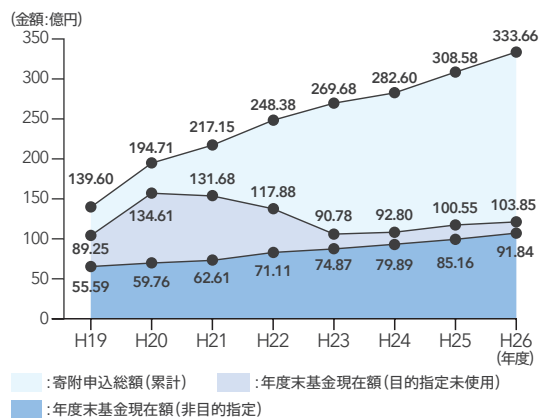
寄附申込総額

33,365,994,738円

寄附総件数

77,994件

(平成27年3月末現在)



大学名	基金の規模(億円)
ハーバード大学	38,800 <sup>※1</sup>
イエール大学	24,936 <sup>※1</sup>
プリンストン大学	21,840 <sup>※1</sup>
ケンブリッジ大学	8,820 <sup>※1</sup>
オックスフォード大学	7,254 <sup>※1</sup>
東京大学	103 <sup>※2</sup>

※1: 1ドル=120円、1ポンド=180円で計算(平成25年調査)

※2: 平成26年度未現在

[涉外・基金課調べ]



安田講堂改修工事では、寄附者のお名前を椅子に顕彰させていただきます。